



「戦国時代の神戸市北区」

本年度のNHK大河ドラマは、兵庫県にも関連がある（黒井城（丹波市）、八上城（丹波篠山市））明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」です。多くのファン層がいる戦国時代ということもあって関係の地域は大いに賑わうところでしたが、新型コロ



ナウィルス感染症の拡大もあって今のところ関係地の盛り上がり期待したものとなっていないようです。

さて、織田信長の天下布武を実現するための戦略として、中国地方の毛利氏を制圧するために、その前線基地的位置づけとなるのが摂津・播磨地域ということになります。

そのことに関連した新聞記事が2019年8月に神戸新聞に掲載されました。神戸市北区道場町の松原城（道場城・たんぽぽ城）跡に関するものでした。松原城は、織田信長の三田城攻めで織田方の付城つけしろとなり、羽柴秀吉の軍勢が入城したといわれています。

元々は、14世紀後半に赤松氏が三田城の支城として築城し、代々松原氏が城主を務めたとされます。遺構として、曲輪くるわ、土塁、堀切があり、防御性の高い施設だったことが発掘調査からわかっています。城域は東西約150m、南北約100mといわれています。

場所は、神戸電鉄道場駅すぐにあります。現在は、宅地開発が進み、遺構をみることはできませんが、あの戦国の世の展開を偲ぶ痕跡がこの北区にあったことは興味深いですね。